



1月度 座談会

拝読御書

す しゅん てん のう ご しょ
崇峻天皇御書

本文

なかつかさのさぶろうざえものじょう

しゅ おん

「中務三郎左衛門尉は、主の御ためにも、

ぶっぼう おん

せけん こころ

仏法の御ためにも、世間の心ねも、よかりけり、

よかりけり」と、鎌倉かまくらの人々ひとびとの口くちにうたわれ

たま

くら たから

給え。あなかしこ、あなかしこ。蔵の財くらよりも

たから

たから

こころ たから

身の財たからすぐれたり、身の財たからより心の財こころ第一なり。

おんふみ

ごらん

こころ

この御文を御覧あらんよりは、心の

たから

たま

財をつませ給うべし。

通解

なかつかさのさぶろうざえもんのじょう しじょうきんご
「中務三郎左衛門野尉(=四条金吾)は、
しゅくん つか ぶっぼう
主君に仕えることにおいても、仏法に
つ せけん
尽くすことにおいても、世間における
こころ すば すば
心がけにおいても、素晴らしい、素晴らしい
い」と、かまくら
鎌倉の人々の口にうたわれていきな
くら たくわ ざいほう
さい。蔵に蓄える財宝よりも
たから たから っ
身の財がすぐれ、身の財よりも心に積んだ
たから
財が第一である。この手紙を
らん いご たから っ
ご覧になってから以後は、心の財を積んでい
きなさい。

拝読のポイント ①

★創価の誇りを胸に勝利の実証を

にちれんだいしょうにん ほこ おね しょうり じっしょう
日蓮大聖人は、誠実第一で周囲の

ひとびと しんらい
人々から信頼されることが、

ぶっぼうしゃ めざ
仏法者として目指すべき

しょうり すがた おし
“勝利の姿”であることを教え

られています。



拝読のポイント ②

★無^む上^{じょう}の人生は「心^{こころ}の財^{たから}」を積^つむ中^{なか}に

大^{だい}聖^{しょう}人^{にん}は、三^{さん}つ^つの財^{たから}の中^{なか}で、「心^{こころ}の財^{たから}」

こ^こそ最^{さい}高^{こう}の宝^{たから}であり

そ^それを積^つむこと^{こと}が人生^{じんせい}の根^{こん}本^{ぽん}目^も的^{くてき}

である^のと述^のべ^べら^られ^れて^てい^いま^ます。

信^{しん}心^{しん}によ^よつ^つて磨^{みが}いた心^{こころ}、築^{きず}いた豊^{ゆた}かな生^{せい}

命^{めい}の境^{きょう}涯^{がい}が^があ^あつ^つては^はじ^じめ^めて、

蔵^{くら}の財^{たから}・身^みの財^{たから}も^も生^いか^かさ^され^れま^ます。





みっ 三つの財を詳しく たら くら

くら たら 「蔵の財」 お金や土地などの財産のこと



み たら 「身の財」 けんこう さいのう みに付けた技術のこと



こころ たら 「心の財」 せいめい ふくとく また、こころ ゆた 心の豊かさ



まとめ

人生において大事なことは「心の財」^{たから}
を積む^つことです。「あの人は、どこか
違う。輝^{かがや}いているものを持^もっている」
という信用^{しんよう}を得^えることが、仏法^{ぶつぽう}の確^{たし}か
な実証^{じっしょう}です。
人の振^ふる舞^まいこそ釈尊^{しゃくそん}の出世^{しゅっせ}の本懐^{ほんかい}で
あると教^{おし}えられています。